

## 今日の保育者養成校における音楽教育に関する一考察

### —幼稚園側の要望を手がかりに—

○大谷純一 鈴木泰子 大場麻美子  
(聖セシリア女子短期大学)

#### I. 研究目的

ここ数年、保育者養成校に入学する学生の気質や能力などには著しい変化が見られる。それは学習目的の希薄化や学力低下、生活姿勢といった問題だけではない。(ピアノレッスン) (リトミック) (保育内容・表現) などの体験型の授業においては、自らの「からだ」を解放すること、「からだ」で感じることを、「からだ」で表現すること、他者とかがわることを躊躇する学生を多く見かけるようになった。そして本研究では、こうした学生たちを視野に入れた、今日の保育者養成校における音楽教育のあり方を検討する目的により、その課題を探ることとした。

#### II. 研究方法

**調査方法** 幼稚園を対象に、質問紙調査を行った。

**調査対象** 聖セシリア女子短期大学平成12年度～14年度の実習・就職園111園である。その内訳は神奈川県79園(相模原市・横浜市・厚木市など)、東京都32園(町田市・八王子市・多摩市など)となっている。

**調査期間** 平成15年7月1日～7月26日

**調査内容** ・記入者の役職など・園の概要・音楽活動の概要・保育者養成校で養って欲しい基礎的技能・保育者養成校の音楽教育に対する要望や意見

**回収結果** 111園中74園より回収、回収率67%

#### III. 結果

【記入者】の約8割は園長、副園長、主任で、園の統括や保育者の指導的立場の者が多かった。

【園児数】は200人未満31%、200～300人未満38%、300～400人未満15%、400人以上16%であった。

【保育形態】は一斉保育73%、自由保育3%、一斉と自由保育の混合形態22%、その他3%であった。

【音楽活動の概要】では、1園を除く全てが朝や帰りの集会時に音楽活動を行っていた。また、定期的な音楽活動を行っている園は43%、行っていない51%、その他5%で、その内容は鍵盤ハーモニカ31%、歌唱・リトミック共に28%、その他、打楽器、歌遊びなどである。年間行事で多く行われている音楽的発表の内容は、器楽合奏81%、合唱73%、ダンス70%、オペレッタ64%、鼓笛隊26%という結果であった。

【保育者養成校で養って欲しい基礎的技能】の結果は表1の通りである。ここでは、表1に示す選択肢を用意し、そう思うもの上位5つに順位を付すよう依頼した。その結果を5段階評価(1位5点、2位4点・・・5位1点)し、各内容の平均得点を算出した。

表1. 基礎的技能

内容	得点
弾き歌い	4.11
ピアノ演奏	3.63
簡易伴奏	3.10
歌唱法	2.81
移調奏	2.06
簡易楽器演奏	2.05
創作	1.53

【保育者養成校の音楽教育に対する要望や意見】については自由記述とした。記入53園(未記入21園)から得た要望などの概要を表2に纏めた。

表2. 要望・意見の概要

内容	件数
基礎的技能に関して	48件
ピアノ演奏(23) 弾き歌い(9)	
簡易楽器演奏(6) 簡易伴奏(4)	
歌唱法(3) その他(3)	
読譜力に関して	4件
リズム力に関して	4件
感性・表現力に関して	13件
心情・意欲・態度に関して	12件

#### IV. 考察

##### 1. 基礎的技能に関して

この上位は「弾き歌い」「ピアノ演奏」「簡易伴奏」であった。園での音楽活動を概観しても、保育の中で歌は中心的な存在であり、「弾き歌い」は保育者にとって不可欠な技能と考えられていることがわかる。また、合唱やオペレッタなどの発表ではピアノ伴奏(演奏)が一般的であると思われることから、幼稚園での音

楽活動において使用頻度の高いピアノの技能習得に寄せる期待の大きさが伺える。これについては養成校の音楽教育に対する要望や意見にも顕著に現れ、「ピアノの基礎・基本を身につけさせて欲しい」「ピアノの技術が年々劣ってきている」、また「正しく伴奏が弾けるようにして欲しい」「伴奏が途中で止まらない程度の力を身につけて欲しい」など、「ピアノ演奏」と「弾き歌い」に関する要望が数多く寄せられた。こうしたことから、幼稚園側の求めるピアノ演奏レベルに答えられない保育者が少なくないように思う。また、子ども主体の音楽活動を展開するために必要な「移調奏」「創作」「簡易楽器演奏」の得点はあまり高くなかった。しかし、質問紙に付記されていた「順位をつけるのは非常に難しいと思います。一応つけましたが・・・」という意見を見ても、これらの技能習得を望む園は少ないと結論づけることは早急であろう。むしろ幼稚園側は、せめて毎日の保育に支障を来さない程度の「弾き歌い」「ピアノ演奏」の技能習得を望んでいる、と捉えた方がよいのではなかろうか。

保育におけるピアノ活用の問題は他に譲るとして、保育者がピアノを大きな助けとしながらも、それに対応できる演奏能力が不足しているならば、養成校でのピアノ教育のあり方を問い直す必要があると考える。

## 2. 読譜力などの基礎的能力に関して

自由記述欄には、「楽譜を読めるようにして欲しい」「正しいリズム感を身につけて欲しい」という要望が挙げられていた。読譜力、あるいはリズム感・音高感などは、ここに問題となっている「弾き歌い」や「ピアノ演奏」技能の向上に貢献する能力であることは言うまでもないが、子どもを指導するうえでも重要なものとなる。音楽教育の基礎を〈読める〉〈書ける〉〈表せる〉とするならば、教科の性質上、〈読める〉、すなわち音・音楽を「からだ」で感受できる力や、音楽のメッセージ(=楽譜)を読み取れる力よりも、〈表せる〉力に目が奪われがちな面がある。これは、軟弱な地盤に強固な建造物を築くようなものであり、こうした点を考えあわせながら、本研究テーマを省察していく必要性を改めて感じた。

## 3. 感性・表現力および心情・意欲・態度に関して

幼稚園側の要望には、「表現力を養って欲しい」「音楽の楽しさを体全体で表現できるようにして欲しい」など、表現力の育成に関するものが少なくなかった。また、「音楽の心を表現できる演奏技術」や「笑顔で楽しい気分を指導すること」が望まれているが、この要因は「表現力の乏しい保育者が多くなってきた」とこ

ろにあると思われる。表現力は、音楽という器の中だけに留め考えるものではなく、保育者養成教育全般にわたる課題と捉えるべきであろう。そして、保育学生の表現力の乏しさが指摘される今、表現力の育成を養成校としてどう受け止め、どう対処するか、その方策を探る作業を怠ってはならないと考える。

また、「感性を磨いて欲しい」という要望も多く寄せられた。今日、さまざまな分野で「からだ」の見直しが行われているが、この背景には、感性の問題とも深くかかわる「からだ」の弱まりへの危機感があるように思う。そして、感性の育成は「からだ」の耕しと養成にもかかわる問題で、子どものつぶやきを感受し、それに応答する相互交渉の中に日々生活する保育者にとっては重要な能力と言える。この感性の育成は容易ではないが、保育者の基礎的能力として、その育成に取り組んでいかなければならないと考える。

最後に、心情・意欲・態度に関する要望を検討しておきたい。「音楽の好きな保育者」「音楽を大切にする心」を育てて欲しいという要望には、義務的に音楽とかかわっている保育者の姿が見えてくる。「音楽が好き」という保育者の心情は、子どもの音楽への興味と関心、愛好心を育む大切な源となる。ここに提出された意見は、われわれ授業者への警鐘と受け止め、日々の教育のあり方を振り返る必要があるだろう。また、「努力をしない保育者が多くなった」「努力の必要なことを伝えて欲しい」「やる気のある保育者を望む」という意欲と態度に関する意見は、現在の学生気質を端的に表現している。こうした心情・意欲・態度は職業意識とも結びつくものであり、それは専門職としての責任感、使命感の育成と関連する課題でもある。今日の保育者養成校の音楽教育においては、こうした点も考慮した取組が必要な時代を迎えていると言えるのではないだろうか。

## V. おわりに

以上を踏まえ考えると、まずは幼稚園側の要望を真摯に受け止め、音楽の基礎的技能・能力とは何かを明確にする必要がある。すなわち、それは教育内容の再検討であり、そのうえで、養成期間や他教科との連携を視野に入れた教育内容の配分と配列、そして教育方法に関する研究を推進しなければならないと考える。また同時に、保育者養成教育における音楽教育の位置づけや役割を明確にすることも肝要であろう。こうした取組を進めるにあたっては、ここに挙げた諸課題に目を向け、これに対処する教師自身の意識改革が重要になると考える。